

## 採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：学際、複合、新領域】

|  |                    |      |       |
|--|--------------------|------|-------|
| 大 学 名  | 東京大学               | 整理番号 | J - 1 |
| 拠点のプログラム名称   | 生物多様性・生態系再生研究拠点    |      |       |
| 中核となる専攻等名  | 農学生命科学研究科生圏システム学専攻 |      |       |
| 事業推進担当者  | (リダー) 鷲谷 いづみ 外17名  |      |       |
| <p>(拠点形成の概要)</p> <p>本拠点は、森林、農地、海洋等の自然資源の利用・管理にかかわる農学生命科学および海洋科学の諸分野を縦系に、生物多様性・生態系の維持・保全という新たな社会的課題に寄与すべく発展しつつある環境情報学、保全生態学、保全遺伝学、環境修復学を横系に、環境の世紀にふさわしい新たな科学と技術の体系を編みだすことを目的とする。本拠点では、総合的・俯瞰的視野をもった研究者と実務者の養成を重視し、国際的な教育・研究・情報交流を推進する。日本を含むアジアの森林 - 草原、海域 - 陸水域 - 陸域などの移行帯を共通の現場とし、遺伝子・種・生態系の多様性、土壌・底質 - 植物系から広域的な生態系の構造・機能複合としての景観まで、生物多様性・生態系再生の計画、実践、評価を視野に入れた研究・教育活動を展開する。また、研究成果を反映させた協働プログラムの立案や実施を通じて市民、NPO、企業、行政等と連携し、広範な市民による社会的評価を受けつつ研究・活動を展開する。</p> |                    |      |       |
| <p>(採択理由)</p> <p>目的志向型で、高い研究水準に基づき、しっかり構想された拠点形成計画となっている。生物多様性・生態系再生を目指す上で、社会との連携が不可欠なことから、本計画により、一層の学際的な取り組みが進められることになり、日本およびアジアにおける自然再生への貢献が期待できる。</p>   |                    |      |       |